

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	異文化理解						
担当教員	山内 啓子					科目ナンバー	T51220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	英語とその背景にある異文化の多様性を学び客観的な理解を深める。						
授業の概要	社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、他者に配慮を行うこと、異なるものを理解する重要性に焦点を当てる。異文化の語義理解から始め、より広義の文化・異文化を理解する手段として日本を基軸に比較を行いながら現状と課題について学ぶ。中でも特に学科の特性として文化の多様性の学びを中心に、知識の集積を通して、世界のさまざまな価値観に触れ、異なるものをとすれば主観的に捉えてしまうことを認識し、その上で客観的に異文化を理解する必要性を学ぶ。授業では英文の教科書を用いた講義でまず英語の表現や語彙を増やし、異文化の知識を得る以外に、文献調査や資料渉猟の方法やルールも共に学び、それらの資料に基づき考察を加える。最終的には文化の多様性を学んだ中から、客観理解の重要性を理解するようになる。						
到達目標	世界の文化の多様性を学び、それを通して次の3つのことを理解している。1) 異文化コミュニケーションの重要性と2) 現状、そしてその3) 課題を理解している。						
授業計画	授業回により、交換留学生等の授業参加を得て、異文化理解を体験的に学ぶ機会を設ける。 第1回：オリエンテーション：異文化とは何か、異文化を学ぶとは何か。 第2回：食の異文化（What makes Kobe beef so special?） 第3回：学校文化の比較（What are those backpacks Japanese school children wear?）、文献調査、資料渉猟の方法 第4回：異文化の味覚体験（What are those seven things in shichimi?） 第5回：シンボルの異文化（Why those Japan's postal symbol look like that?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第6回：異文化の食体験1（Why is there plastic grass in my bento?） 第7回：日常生活の中の異文化1（Why is there a 5 o'clock bell?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第8回：日常生活の中の異文化2（Why do train drivers in Japan make those strange gestures?） 第9回：異文化の食体験2（How is nori made?）、文化の多様性を体験する 第10回：日常生活の中の異文化3（Why do Japanese people wear masks?） 第11回：食の文化交流1（What do the dates on food package mean?）、文化の多様性を体験する 第12回：「常識」の中の異文化（Why do Japanese ask about blood type?） 第13回：日常生活の中の異文化4（Do Japanese mosquito coils work?）、多様な文化背景を持った人々との交流 第14回：食の文化交流2（Why does miso soup move by itself?）、文化の多様性を体験する 第15回：授業全体の振り返りと 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習することーvocabulary checkとpre-reading checkから始めて本文を精読し、付随する設問も解いておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で指示された課題の資料調査を行い、その内容をmanabaコースコンテンツに投稿する。また、topic expansionは次の授業でテストになるのでその準備を行うこと（学習時間2時間）						
授業方法	毎回テーマの導入時に共同学習でディスカッションや検討を行い、その後教科書のテーマについての解説、講義を行う。その後再度テーマ別のディスカッション、発表を行う。						
評価基準と評価方法	積極的なクラス参加（意欲と知識の観点から）、確認テストなどからの総合評価を行う。 積極的なクラス参加20%、確認テスト40%、期末テスト40%						
履修上の注意	評価は総合的に行われるので意欲と積極性が大きく求められる。その点を十分承知して予習復習を誠実にやり、積極的にクラス参加を行うこと。						
教科書	Surprising Japan! 2 : Alice Gordenker, John Rucynski 著 （松柏社）						

参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
-----	--------------------------

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	音楽実技						
担当教員	奥村・横山・矢野・淵田・永峯					科目ナンバー	T41220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽入門」で学んだ楽典、ピアノ奏法の技能についてさらに向上させ、弾き歌いについて学ぶ。						
授業の概要	「音楽入門」と同様に1クラスを2つのグループに分けて実施する。毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のレベルに合わせて3つのグレードごとに設定された課題曲から選択した教材を学習する。歌唱教材の「弾き歌い」の技能とともに、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行えるよう、鍵盤楽器でのレパートリーの拡充を図る。集団の授業では、コードネームについての理解を深め、主要三和音と副三和音を使用した簡単な伴奏付けや、使用する音を簡略化することができるよう、実践的な知識と技能を身につける。すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で理論と実技の双方を学ぶ。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から10曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 リズムと拍子、及び個人レッスン2 第4回 音階と調、及び個人レッスン3 第5回 歌唱教材の選択、及び個人レッスン4 第6回 移調、及び個人レッスン5 第7回 コードネーム、及び個人レッスン6 第8回 活動の環境づくり、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 課題については、十分な学習時間を確保すること。 楽典のテキストについて、指示された箇所の予習を行う。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 1クラスを2つのグループに分けて、個別の実技指導と集団での授業を行う。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽入門」を履修していること。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。						
参考書							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	音楽実技						
担当教員	奥村・横山・矢野・淵田・永峯					科目ナンバ－	T41220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽入門」で学んだ楽典、ピアノ奏法の技能についてさらに向上させ、弾き歌いについて学ぶ。						
授業の概要	「音楽入門」と同様に1クラスを2つのグループに分けて実施する。毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のレベルに合わせて3つのグレードごとに設定された課題曲から選択した教材を学習する。歌唱教材の「弾き歌い」の技能とともに、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行えるよう、鍵盤楽器でのレパートリーの拡充を図る。集団の授業では、コードネームについての理解を深め、主要三和音と副三和音を使用した簡単な伴奏付けや、使用する音を簡略化することができるよう、実践的な知識と技能を身につける。すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で理論と実技の双方を学ぶ。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。 子どもの歌唱教材から10曲を弾き歌いすることができる。 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 リズムと拍子、及び個人レッスン2 第4回 音階と調、及び個人レッスン3 第5回 歌唱教材の選択、及び個人レッスン4 第6回 移調、及び個人レッスン5 第7回 コードネーム、及び個人レッスン6 第8回 活動の環境づくり、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 課題については、十分な学習時間を確保すること。 楽典のテキストについて、指示された箇所の予習を行う。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 1クラスを2つのグループに分けて、個別の実技指導と集団での授業を行う。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽入門」を履修していること。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 ピアノのグレード毎の課題曲は、授業開講日に発表する。						
参考書							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村・横山・矢野・幸野・洲田永峯					科目ナンバー	T41210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。楽譜に書かれた音符を歌やピアノで実際に音として再現するために、記譜の約束事、音名、音程、音階、楽語などを理解する。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む中で、演奏する際の姿勢、手の形、打鍵、運指などについて確認する。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。 すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。						
到達目標	五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について知識のない人がわかるように説明できるようになる。 ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	グレード別の課題曲及び選択曲について、指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々、練習に取り組むこと。 また、教科書の指定された箇所を予習しておくこと。（学習時間：5時間）						
授業方法	実習 クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。 授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
履修上の注意	積極性、継続的な日々の練習は必須です。 個々に練習時間を確保して、課題の練習を怠らないこと。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	奥村・横山・矢野・幸野・湊田永峯					科目ナンバー	T41210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	子どもの音楽活動を支える音楽実践技能の基礎を習得する。						
授業の概要	子どもの音楽活動を援助したり、指導するために必要な楽典の基礎知識とピアノ奏法の基礎を学ぶ。楽譜に書かれた音符を歌やピアノで実際に音として再現するために、記譜の約束事、音名、音程、音階、楽語などを理解する。各自の鍵盤楽器の学習経験に即した課題曲に取り組む中で、演奏する際の姿勢、手の形、打鍵、運指などについて確認する。連弾曲の練習と発表を通して、アンサンブルの体験をする。すべての時間において、クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。						
到達目標	五線譜に記された音部記号、音名、音符、休符、拍子記号など基礎的な事項について知識のない人がわかるように説明できるようになる。 ピアノを演奏する際の姿勢、手の形、運指やポジションなどの基本を理解し、課題のピアノ曲を弾くことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、アンケートによるグレード分け 第2回 ピアノ奏法のための基礎的な用語解説 第3回 楽典について 及びレッスン1 第4回 課題曲の解説 及びレッスン2 第5回 「譜表と音名」 及びレッスン3 第6回 「音符と休符」 及びレッスン4 第7回 バーナムの練習曲による小テスト 及びレッスン5 第8回 連弾について 及びレッスン6 第9回 「音程」 及びレッスン7 第10回 「音階と調」 及びレッスン8 第11回 「リズムと拍子」 及びレッスン9 第12回 連弾の発表 第13回 「ペダルの使用法」 及びレッスン10 第14回 「音楽表現のための楽語」 及びレッスン11 第15回 演奏の発表（期末試験）とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	グレード別の課題曲及び選択曲について、指摘された問題点を次の授業までに解決できるよう、日々、練習に取り組むこと。 また、教科書の指定された箇所を予習しておくこと。（学習時間：5時間）						
授業方法	実習 クラスを半分に分け、表現技術などの理論を学習する班と少人数で音楽表現の個別指導を受ける班を設定する。授業の前半と後半でこれらの班を入れ替え、すべての学生が1単位時間で技術を学び実践を通じて表現力を向上させることができる方式とする。						
評価基準と評価方法	平常点（レッスンへの取り組み、連弾の発表などを総合する）60％ 期末試験40％ 出席回数が10回に満たない場合、また期末試験を受けない場合は評価の対象にならない。						
履修上の注意	積極性、継続的な日々の練習は必須です。 個々に練習時間を確保して、課題の練習を怠らないこと。						
教科書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社 グレード別のピアノ課題曲は、第1回めの授業で発表します。						
参考書							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	学習・発達論						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学						
授業の概要	学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると説いた。また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。						
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1）各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2）授業中に示した課題について報告文を作成し、1）と2）を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。						
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。						
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う						
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。						
教科書	授業にて指定 『読んでわかる児童心理学』著者：藤本・榊原・金綱、サイエンス社（2019年9月刊行予定）						
参考書	授業中に適宜紹介する						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	学習・発達論						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学						
授業の概要	学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると説いた。また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。						
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1）各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2）授業中に示した課題について報告文を作成し、1）と2）を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。						
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。						
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う						
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。						
教科書	授業にて指定 『読んでわかる児童心理学』著者：藤本・榊原・金綱、サイエンス社（2019年9月刊行予定）						
参考書	授業中に適宜紹介する						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	学習・発達論						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバー	T01110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子ども支援のための発達と学習の心理学						
授業の概要	学習発達論における代表的な研究を概観する。ピアジェは、主体（人）と対象（世界）の相互の関わりによって認識が発達するという認知発達の段階説を唱え、他方でヴィゴツキーは、文化や人とのかかわりこそ発達や教育に不可欠であると説いた。また、スキナーは、動物実験によって、主体が世界に適応する仕組みを条件づけという形で明らかにした。その他にも、学習の認知説や観察学習論など、さまざまな心理学の理論を検討しながら、人が自分を発見し世界に適応していく過程を、発達と学習という観点から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	子どもたちの学習を支援するための以下の知識を身につける。①学習理論、②発達理論。また、それらの理論の具体的な展開を理解できる。						
授業計画	第1回：発達・遺伝・環境 第2回：外界の認識についてピアジェの認知発達論 第3回：乳幼児・児童の認知発達 第4回：エリクソンの生涯発達論 第5回：社会性の発達 第6回：社会的関係の中の発達についてヴィゴツキー理論から学ぶ 第7回：道徳性の発達 第8回：思春期・青年期の心と体 第9回：思春期・青年期の知的発達 第10回：学習の仕組みについてスキナーの条件づけ理論から学ぶ 第11回：条件づけとは異なる学習について観察学習論から学ぶ 第12回：学習と動機づけの理論と具体例 第13回：やる気と学習アイデンティティの関係について 第14回：メタ認知と自己調整学習 第15回：生徒の心理アセスメント、定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1）各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2）授業中に示した課題について報告文を作成し、1）と2）を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。						
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。						
評価基準と評価方法	平常点と最終の定期テストの点数とをほぼ同率で合計し、その素点をもとに評価を行う						
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。						
教科書	授業にて指定 『読んでわかる児童心理学』著者：藤本・榊原・金綱、サイエンス社（2019年9月刊行予定）						
参考書	授業中に適宜紹介する						

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	教育原理							
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	T01100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。							
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。							
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する。							
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学の歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が授業内容を自分の体験に即して吟味する（学習時間：5時間）。 2. 時事問題に隠された教育原理上の課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 14回目のレポートを授業内容を踏まえて作成する（学習時間：10時間）。							
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では視聴覚教材を活用して学生同士で議論する。 3. 後半では発表などのアクティブ・ラーニングを行う。							
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）							
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6							
参考書	必要に応じて配付と指示を行う。							

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	教育原理							
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	T01100	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。							
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。							
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する。							
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学の歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が授業内容を自分の体験に即して吟味する（学習時間：5時間）。 2. 時事問題に隠された教育原理上の課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 14回目のレポートを授業内容を踏まえて作成する（学習時間：10時間）。							
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では視聴覚教材を活用して学生同士で議論する。 3. 後半では発表などのアクティブ・ラーニングを行う。							
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）							
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。							
教科書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6							
参考書	必要に応じて配付と指示を行う。							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバー	T01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。						
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史的変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。						
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学 of 歴史 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が授業内容を自分の体験に即して吟味する（学習時間：5時間）。 2. 時事問題に隠された教育原理上の課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 14回目のレポートを授業内容を踏まえて作成する（学習時間：10時間）。						
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では視聴覚教材を活用して学生同士で議論する。 3. 後半では発表などのアクティブ・ラーニングを行う。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6						
参考書	必要に応じて配付と指示を行う。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育社会学						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ－	T01070
学期	前期 前半	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校の社会的機能を理解し、教育政策の動向を把握する。						
授業の概要	教育社会学は、さまざまな教育現象を社会的に研究する学問領域である。講義では、教育と選抜、社会階層と教育、情報化と教育といった教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題、例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について、教育社会学の理論や分析手法を用いて検討を加えていく。これにより、事象を個人的な経験を基にした主観的な見方ではなく、客観的に捉える力を養うことを目指していく。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養う。						
授業計画	第1回：教育社会学とは何か 第2回：日本の教育政策の動向－諸外国との比較から－ 第3回：教育をめぐる格差問題 第4回：教育問題①－ネットいじめ問題 第5回：教育問題②－不登校の問題 第6回：教育問題③－特別な支援を必要とする子どもへの対応 第7回：学校と地域社会との連携 第8回：学校安全への対応						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・教育社会学に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点40% 課題試験60%						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	使用しない。プリント資料等を配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育課程の意義と編成						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ	T11030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。						
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の4つを主たる目的として授業内容を構成する。第一に、各学校段階の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第二に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、内容に基づくカリキュラムと能力に基づくカリキュラムの違い、教育課程・カリキュラムと授業および評価との関わりについて理解を深める。第三に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解を深める。第四に、不登校問題の子どもに対する教育課程の在り方、学校の支援について学ぶ。						
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼・小・中・高の学習指導要領の教育課程について時間割から考える 第3回：発達段階とカリキュラム 第4回：幼稚園・小学校のカリキュラムのポイント 第5回：中学校・高校のカリキュラムのポイント 第6回：教育課程編成の原理 経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ 第11回：現代的教育課程 アクティブラーニングを取り入れたカリキュラム開発とカリキュラム・マネジメント 第12回 教科の学びと合科的な学び 生活科・総合的な学習の時間・カリキュラム開発事例 第13回 カリキュラムと評価 学力問題とカリキュラム評価 第14回 パフォーマンス評価とカリキュラム作り 第15回 筆記試験と講義全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による						
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						
参考書	田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2017年。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育課程の意義と編成						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ－	T11030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。						
授業の概要	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の4つを主たる目的として授業内容を構成する。第一に、各学校段階の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第二に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、内容に基づくカリキュラムと能力に基づくカリキュラムの違い、教育課程・カリキュラムと授業および評価との関わりについて理解を深める。第三に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解を深める。第四に、不登校問題の子どもに対する教育課程の在り方、学校の支援について学ぶ。						
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼・小・中・高の学習指導要領の教育課程について時間割から考える 第3回：発達段階とカリキュラム 第4回：幼稚園・小学校のカリキュラムのポイント 第5回：中学校・高校のカリキュラムのポイント 第6回：教育課程編成の原理 経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ 第11回：現代の教育課程 アクティブラーニングを取り入れたカリキュラム開発とカリキュラム・マネジメント 第12回 教科の学びと合科的な学び 生活科・総合的な学習の時間・カリキュラム開発事例 第13回 カリキュラムと評価 学力問題とカリキュラム評価 第14回 パフォーマンス評価とカリキュラム作り 第15回 筆記試験と講義全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による						
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						
参考書	田中耕治『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2017年。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育現場体験						
担当教員	井上・根津・寺見・郭・水田・金丸					科目ナンバー	T01020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	学校・保育・子育て支援現場での実地学習を行う。						
授業の概要	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援施設の実際を見学する。見学の事前指導・事後指導では、全体指導や訪問時グループ別の指導など保育実習・教育実習といった将来の学びを見据えて、現場でのマナーはもちろん、実践を見る際の視点、子どもを観察する際の視点、観察記録の書き方などを学ぶ。複数の訪問先に応じて複数の教員が引率を行ったり、1単位時間の授業でも、前半は、各学校園・施設について教員を中心とした全体への指導を行い、後半は、各クラスに分かれて、訪問に関する指導を小グループで行うなど、教員が共同することで多様に学習形態を変えながら授業を進める。						
到達目標	①乳幼児・児童・生徒期の子どもの育ちと教育についてレポートにまとめることができる。 ②乳幼児・児童・生徒を援助するための保育・教育についてレポートにまとめることができる。 ③授業全体を通じて、教師や保育者の仕事について説明することができる。						
授業計画	保育所（代表：寺見）、幼稚園（代表：井上）、小学校（代表：根津）、中学校（代表：郭）、高等学校（代表：水田）、特別支援施設（代表：金丸）を中心に、見学と実地体験を行う。具体的な訪問順、および訪問先は授業開始までに確定する。 第1回 オリエンテーション 授業の進め方・レポートに関する説明（郭・金丸）、訪問上の注意（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸） 第2回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第3回 現場見学と実地体験（1）：引率（全教員） 第4回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第5回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第6回 現場見学と実施体験（2）：引率（全教員） 第7回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第8回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第9回 現場見学と実施体験（3）：引率（全教員） 第10回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第11回 事前指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）、および訪問に関する諸連絡（全教員） 第12回 現場見学と実地体験（4）：引率（全教員） 第13回 事後指導（寺見、井上、根津、郭、水田、金丸）とレポート作成（郭・金丸） 第14回 全体に関するディスカッション（全教員） 第15回 まとめ（全教員）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各訪問校種の事前学習で行う内容の予習（学習時間90分） 授業後学習：各訪問校種の事後学習の内容の確認・整理（学習時間90分）						
授業方法	講義およびグループディスカッション、実習見学						
評価基準と評価方法	学外実習レポート：80% 総括レポート：20%						
履修上の注意	学外見学が中心のため、出席および無遅刻で参加すること。 提出物については、期限を厳守すること。						
教科書	無し。						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育方法の理論と実践						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。						
授業の概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。						
到達目標	以下3点を目標とする。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブ・ラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブ・ラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高橋市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。						
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。						
評価基準と評価方法	平常点10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20%、模擬授業の実施40%、授業改善レポート30%。						
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進捗具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育方法の理論と実践						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。						
授業の概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。						
到達目標	以下3点を目標とする。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブ・ラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブ・ラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高橋市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。						
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。						
評価基準と評価方法	平常点10％（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20％、模擬授業の実施40％、授業改善レポート30％。						
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教育方法の理論と実践						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	T01090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。						
授業の概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。						
到達目標	以下3点を目標とする。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブ・ラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブ・ラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高山市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（30分）。学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（60分）。						
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。						
評価基準と評価方法	平常点10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20%、模擬授業の実施40%、授業改善レポート30%。						
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教職概論						
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	T01060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。						
授業の概要	教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。 また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。						
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義 第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴 第3回：幼稚園の教育内容、職務内容 第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容 第5回：教員の職務内容の全体像、 第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障 第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割 第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能 第9回：子ども理解に基づく指導・支援 第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育 第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応 第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担 第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性 第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上 第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間） 授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）						
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。						
履修上の注意	1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 3. 出席が10回以上でないとき期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）						

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	教職概論							
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	T01060	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。							
授業の概要	教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。 また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。							
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する。							
授業計画	第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義 第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴 第3回：幼稚園の教育内容、職務内容 第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容 第5回：教員の職務内容の全体像、 第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障 第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割 第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能 第9回：子ども理解に基づく指導・支援 第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育 第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応 第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担 第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性 第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上 第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題 定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間） 授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）							
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。							
履修上の注意	1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 3. 出席が10回以上でないとき期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）							
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	教職概論						
担当教員	大石 正廣					科目ナンバー	T01060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程の出発点として、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出す。						
授業の概要	教職課程の出発点として、教職の社会的意義と役割を理解する。 また、教職に対する自らの適性を吟味させつつ教員として働く意欲を引き出すことを目指す。そのため、次の3点を主な目標に授業内容を構成する。第一に、教職の特徴と現状に関する基本的な知識を習得しその社会的意義を理解する。第二に、教員の職務内容を知り、これからの時代に求められる役割や資質能力について理解する。第三に、教員としての力量形成と教職の専門性に関する認識を深める。						
到達目標	教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の有り方を理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：今日の学校教育や教職の社会的意義 第2回：公教育の目的、教職の職業的特徴 第3回：幼稚園の教育内容、職務内容 第4回：小学校・中学校の教育内容、職務内容 第5回：教員の職務内容の全体像、 第6回：教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障 第7回：教育観の変遷を踏まえた、今日の教員に求められる役割 第8回：今日の教員に求められる基礎的な資質、能力・技能 第9回：子ども理解に基づく指導・支援 第10回：人権尊重の精神を基盤とした教育 第11回：チーム学校としての組織的な諸課題への対応 第12回：多様な専門性を持つ人材、関係諸機関との連携・分担 第13回：教育をめぐる改革動向と求められる教師の専門性 第14回：教員養成段階における教員としての資質の向上 第15回：教員としての資質、専門性を高めるための今後の自らの課題 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間） 授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）						
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度。積極的な学び（資料作成力やグループ内での積極的姿勢など）と各回のリアクションペーパーで50%、テスト（授業内容の理解）で50%。						
履修上の注意	1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 3. 出席が10回以上でないとき期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 文部科学省 小学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成30年）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（保育士）の仕事を知り、小学校（幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（／保育士）の仕事を知り、小学校（／幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での勉強方法を身に付け、自身の教育者としての素養を高める。						
授業の概要	(概要) この科目では高校での学びと大学での学びの進め方の違いについて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式で、専門分野をベースに演習形式で学生に説明する。大学での授業と自習がいかに連動しているか、どのように図書館を活用して情報収集を行うか、インプットした情報を用いていかに発表としてアウトプットするか、といった大学での学びの基礎を提供する。 (オムニバス方式／全15回) (6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・20 内田 祐貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回) (共同) 各クラスで担任教員が中心となって、大学での自宅学習の必要性、図書館の活用法、授業でのプレゼンテーションの基礎について説明し、学生がプレゼンテーションを実践する。 (6 柏本 吉章／2回) 子どもと英語に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと英語の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (15 大下 卓司／2回) 初等教育や中等教育、幼児教育の類似点や相違点について教育方法に着目して整理し、学生がグループごとにその特徴について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (18 松岡 靖／2回) 高校での学習と大学での学習の違いをいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとにその違いについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (20 内田 祐貴／2回) 子どもと科学に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと科学の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (22 郭 暁博／2回) 各種学校園と教育制度に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 (23 金丸 彰寿／2回) 子どもと障害に関する重要な論点をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとに子どもと障害の接点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	1. 大学と高校での勉強方法の違いを理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 2. 教育の時事問題について自分で調べ理解し、他者にわかりやすく説明できる。【知識・理解】 3. 教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	全体指導 第01回 (1) 大学での勉強方法1：高校と大学の違い、履修計画 第02回 (2) 大学での勉強方法2：資料の調べ方、図書館の利用 第03回 (3) 大学での勉強方法3：大学施設を利用した学習 松岡担当 第04回 (1) 高校と大学の教育はどう違うか？ 第05回 (2) 学生によるグループ討論と発表 大下担当 第06回 (1) 小学校教師（幼稚園教諭）の仕事を知る 第07回 (2) 中学校教師（／保育士）の仕事を知り、小学校（／幼稚園）と比較する 郭担当 第08回 (1) 教育制度と学校の種類を学ぶ 第09回 (2) 学校制度改革について考えてみよう 内田担当 第10回 (1) 子どもと科学1：アイデアの出し方、まとめ方 第11回 (2) 子どもと科学2：資料調べ、レポートの書き方 柏本担当 第12回 (1) コミュニケーションのしくみ、会話のしくみ 第13回 (2) 日本語のコミュニケーションと英語のコミュニケーションを比較する 金丸担当 第14回 (1) 「障害」と「障害のある子ども」：自分のイメージを客観的・相対的に見つめてみる 第15回 (2) 障害のある子どもと教育：根拠をもとに自分の考えを明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間2時間） 授業後学習：授業で扱った内容の確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間2時間）						
授業方法	講義・演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにする。全体でディスカッションしまとめる。						

評価基準と 評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作製したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	特になし
参考書	授業ごとに紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育 1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育 1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育 1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	松岡・大下・郭・内田・柏本・金丸					科目ナンバー	T0101B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の意見を明確に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めて、自身の教育者としての素養を深める。						
授業の概要	（概要）この科目では基礎演習Aで学んだ内容に基づいて、複数の教員が少人数クラスをオムニバス方式でより発展的な学習を行う。各教員が専門分野をベースに演習形式で学生に説明してから、学生がそれぞれのトピックに関するプレゼンテーションを行う。最終授業では1年次での学びを学生が自己評価できるよう指導する。（オムニバス方式／全15回） （6 柏本 吉章・15 大下 卓司・18 松岡 靖・ 20 内田 裕貴・22 郭 暁博・23 金丸 彰寿／3回）（共同） 多様な情報の収集・分析の手法について解説してから、前期に引き続いて学生による討議とプレゼンテーションの進め方を指導し、最後に学生の学びの自己評価を発表する。 （6 柏本 吉章／2回） 子どもに英語教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに英語教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （15 大下 卓司／2回） 各学校段階での教師像について学び、それに向けての大学での学びを計画し、学生がグループごとにそれらについて討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （18 松岡 靖／2回） 現代日本にみられる重要な教育問題をいくつか取り上げて講義してから、学生がグループごとそれらの論点について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （20 内田 裕貴／2回） 子どもに科学教育をするさいの重要な論点について講義してから、学生がグループごとに科学教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （22 郭 暁博／2回） 外国の事例を含む学校教育システムの重要な論点を講義してから、学生がグループごとに教育制度のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。 （23 金丸 彰寿／2回） 障害に関わる教育上の重要な論点について講義してから、学生がグループごとに障害と教育のあり方について討議して、その結果を順番にプレゼンテーションする。						
到達目標	（1）教育に関わる多様な情報の収集・分析の手法について理解し、実践し授業に臨むことができる。【知識・理解】 （2）教育に関わるトピックを自分で設定し、他者に分かりやすくプレゼンテーションすることができる。【知識・理解】 （3）教育者を目指すにあたり、教育への興味関心を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<全体指導> 第01回 プレゼンテーションの方法（1）情報の収集・分析の手法 第02回 プレゼンテーションの方法（2）プレゼンテーションの方法 （柏本担当） 第03回 世界のなかの英語の位置づけを知る 第04回 異文化を理解する、多文化共生について考える （大下担当） 第01回 評価の仕組みを知り、教師・保育士の仕事への理解を深める 第02回 評価方法を実践し、教師・保育士への志望を明確にする （松岡担当） 第07回 現代日本の教育時事問題について解説する 第08回 学生のグループ討論とプレゼンテーション （内田担当） 第09回 子どもと科学教育 1：論理的な文章 第10回 子どもと科学教育 2：論理的なまとめ方 （郭担当） 第11回 教育の境界を探検する（教育制度の国際比較） 第12回 世界の教育事情：数字から見た日本 （金丸担当） 第13回 障害はどこにあるのか？：人間と社会（環境）との関係から考える 第14回 特別支援教育＝障害児教育？：共に生きる社会に向かう教育のあり方について考える <全体指導> 第15回 学生の自己評価：大学での一年間を振り返る						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について、キーワードを中心に教育時事などを調べる（学習時間6時間） 授業後学習：授業で扱った内容を確認整理する。既習事項との関連について調べ、自分の考えをまとめる（学習時間6時間）						

授業方法	演習：基本事項の解説ののち、各テーマについてグループワークやグループディスカッションを行う。結果をグループごとに、ICT機器を用いて効果的にプレゼンテーションを行ったり、レポートにしたりし、全体でディスカッションしまとめる。最後に、大学での1年間を振り返り、学びの成果を自己評価し、2年次以降の学びに活かす。
評価基準と評価方法	授業態度：40% ワーク、ディスカッションへの参加度、グループ発表、リアクションペーパーの内容により総合的に評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 レポート、提出物：60% 作成したレポートや授業成果の提出物に対し、教育の基礎事項に対する理解度、教育に対する興味関心の具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	学科必修の演習であり、必ず履修し、大学での勉強の基礎を身に付けること。
教科書	(内田担当分)「子どもの未来を育む保育・教育の実践知——保育者・教師を目指すあなたに」、神戸松蔭女子学院大学子ども発達学科、北大路書房、ISBN 978-4-7628-3009-9
参考書	とくに指定せずに授業で紹介する。

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子ども家庭支援の心理学						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	T41030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子育て支援、保護者と子ども						
授業の概要	第一に人間の生涯における発達に関する心理学の基礎知識を習得した上で、人生の初期経験がもっている重要性和発達課題について理解する。第二に家族・家庭がもっている意義・機能を理解するとともに、今の日本における子育て家庭にとっての状況と課題を社会的な文脈において理解する。第三に子育て家庭について社会的・個別的に理解することを前提に、子どもの精神保健とそこでの課題に考慮して、子育て家庭を支援する方法を学ぶ。						
到達目標	1. 人の発達を生涯発達の観点から捉え、初期経験の重要性や発達課題を理解することができる。 2. 家族・家庭の意義・機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等を発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得できる。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題が理解できる。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解するとともに、子どもの精神的安定と育ちを支える視点と、子どもを支える保護者・家庭を支援する視点と支援の実際を習得できる。						
授業計画	第1回 生涯発達の観点から見た子ども・保護者の課題 第2回 乳幼児期から学童期前期の子どもの発達 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 第4回 成人期から老年期にかけての発達 第5回 発達環境としての家族・家庭—その意義・機能と関係性、 第6回 親の養育性と親子関係の発達：ライフコースと仕事・子育て、子育て経験と親になる過程 第7回 子育て家庭の現状と課題—ライフコースと子育て・仕事、多様な家庭、 第8回 特別な配慮を要する子どもと家庭 第9回 子育てのストレスコーピングと社会的資源の活用・ネットワークづくり 第10回 子どもの精神保健とその課題—子どもの生活・成育環境と心の健康 第11回 子どもの養育と保護者支援・家族支援・地域支援・次世代育成支援の視点 第12回 子育て支援・保護者と家族の支援・地域支援の展開—子育て支援関連施設の見学 第13回 子育て支援実習—「まつぼっくり」実習と保護者インタビュー 第14回 実習と見学を踏まえたディスカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実際の子どもと触れる機会や子育て支援現場に出かけ、子育てする親の姿や子どもの育つ姿に触れ、子育ての実際に触れる機会を持つようにして欲しい。						
授業方法	講義とワーク、子育て支援活動現場の見学						
評価基準と評価方法	まとめのテスト50点 実習20点 見学レポート20点 インタビュー10点						
履修上の注意	子育てや現実の親子の姿に感心を持ち、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。						
教科書	寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版（ISBN978-4-938795-93-1）						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子ども家庭支援の心理学						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	T41030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子育て支援、保護者と子ども						
授業の概要	第一に人間の生涯における発達に関する心理学の基礎知識を習得した上で、人生の初期経験がもっている重要性和発達課題について理解する。第二に家族・家庭がもっている意義・機能を理解するとともに、今の日本における子育て家庭にとっての状況と課題を社会的な文脈において理解する。第三に子育て家庭について社会的・個別的に理解することを前提に、子どもの精神保健とそこでの課題に考慮して、子育て家庭を支援する方法を学ぶ。						
到達目標	1. 人の発達を生涯発達の観点から捉え、初期経験の重要性や発達課題を理解することができる。 2. 家族・家庭の意義・機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等を発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得できる。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題が理解できる。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解するとともに、子どもの精神的安定と育ちを支える視点と、子どもを支える保護者・家庭を支援する視点と支援の実際を習得できる。						
授業計画	第1回 生涯発達の観点から見た子ども・保護者の課題 第2回 乳幼児期から学童期前期の子どもの発達 第3回 学童期後期から青年期にかけての発達 第4回 成人期から老年期にかけての発達 第5回 発達環境としての家族・家庭—その意義・機能と関係性、 第6回 親の養育性と親子関係の発達：ライフコースと仕事・子育て、子育て経験と親になる過程 第7回 子育て家庭の現状と課題—ライフコースと子育て・仕事、多様な家庭、 第8回 特別な配慮を要する子どもと家庭 第9回 子育てのストレスコーピングと社会的資源の活用・ネットワークづくり 第10回 子どもの精神保健とその課題—子どもの生活・成育環境と心の健康 第11回 子どもの養育と保護者支援・家族支援・地域支援・次世代育成支援の視点 第12回 子育て支援・保護者と家族の支援・地域支援の展開—子育て支援関連施設の見学 第13回 子育て支援実習—「まつぼっくり」実習と保護者インタビュー 第14回 実習と見学を踏まえたディスカッション 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実際の子どもと触れる機会や子育て支援現場に出かけ、子育てする親の姿や子どもの育つ姿に触れ、子育ての実際に触れる機会を持つようにして欲しい。						
授業方法	講義とワーク、子育て支援活動現場の見学						
評価基準と評価方法	まとめのテスト50点 実習20点 見学レポート20点 インタビュー10点						
履修上の注意	子育てや現実の親子の姿に感心を持ち、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。						
教科書	寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版（ISBN978-4-938795-93-1）						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子どもと健康						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	T41230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児期の心身の発達や基本的な生活習慣、運動発達を学び、幼児自らが安全に生活を営まれるよう専門的知識を身につける。						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、認知的・情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達している。それには生活習慣の形成が大きく関わっていることを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的スキルを習得するため、さまざまなアクティビティを取り入れた学習を行い、背後にある理論も含めた理解を促す。						
到達目標	①領域「健康」ねらいと内容を理解し他者に説明できる。 ②乳幼児の発達から基本的な生活習慣の形成を理解している。 ③安全教育と危機管理、応急処置が適切におこなうことができる。 ④幼児期の運動のあり方を理解し、運動の意義を説明できる。						
授業計画	第1回：幼児の健康と5領域における「健康」のねらいと内容 第2回：今日における健康の課題と子どもを取り巻く環境の現状 第3回：幼児のおかれている環境と自然教育 第4回：基本的な生活習慣の重要性 第5回：発達段階からみた睡眠と食事の形成 第6回：発達段階からみた排泄・衣服の着脱・清潔の形成 第7回：基本的な生活習慣の獲得と保育者の支援 第8回：日常生活と運動・日常の動きにみられる遊びの意味を考える - 第9回：幼児期の運動・体力の考え方 第10回：年齢による運動発達の特徴 - 映像と事例から - 第11回：幼児期の運動遊びの重要性 - 幼児期運動指針から考える - 第12回：運動遊びにおける動機づけと保育者の役割 第13回：運動が得意な幼児の支援と対応 - 運動嫌いや配慮を要する幼児について - 第14回：幼児の怪我や事故の実態と病気の予防と対策 第15回：安全教育・危機管理 - リスクとハザードの相違について - 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：毎回の予習に加え、特に第3回～6回目の事前学習として、自分の幼少期を振り返り、家族等へのヒアリングを行いレポートにまとめる。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で課したテーマ等のレポートを作成し、manaba等に提出する。（学習時間1時間）						
授業方法	DVDを視聴後にグループディスカッションを行う。その後グループごとに得られた内容や問題点、課題をまとめ発表する。それらをふまえ、考察を加えながら講義を行う。また、第4回～7回までの授業は製作したもので模擬授業をおこなう。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどの平常点20%、グループ討議と発表30%、期末試験50%						
履修上の注意	1. 幼・保の免許必修であることから、保育者としての意識をもって積極的に受講すること。 2. 授業回数の3分の2以上の出席であること。						
教科書	勝木洋子他 みらい『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』ISBN978-4-86015-316-8c3037 2014年4月						
参考書	倉真智子他 みらい『子どもが育つ運動遊び』ISBN978-4-86015-379-3C3037 2016年4月 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子どもと健康						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	T41230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児期の心身の発達や基本的生活習慣、運動発達を学び、幼児自らが安全に生活を営まれるよう専門的知識を身につける。						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、認知的・情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達している。それには生活習慣の形成が大きく関わっていることを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技術を習得するため、さまざまなアクティビティを取り入れた学習を行い、背後にある理論も含めた理解を促す。						
到達目標	①領域「健康」ねらいと内容を理解し他者に説明できる。 ②乳幼児の発達から基本的生活習慣の形成を理解している。 ③安全教育と危機管理、応急処置が適切におこなうことができる。 ④幼児期の運動のあり方を理解し、運動の意義を説明できる。						
授業計画	第1回：幼児の健康と5領域における「健康」のねらいと内容 第2回：今日における健康の課題と子どもを取り巻く環境の現状 第3回：幼児のおかれている環境と自然教育 第4回：基本的生活習慣の重要性 第5回：発達段階からみた睡眠と食事の形成 第6回：発達段階からみた排泄・衣服の着衣脱・清潔の形成 第7回：基本的生活習慣の獲得と保育者の支援 第8回：日常生活と運動・日常の動きにみられる遊びの意味を考える - 第9回：幼児期の運動・体力の考え方 第10回：年齢による運動発達の特徴 - 映像と事例から - 第11回：幼児期の運動遊びの重要性 - 幼児期運動指針から考える - 第12回：運動遊びにおける動機づけと保育者の役割 第13回：運動が得意な幼児の支援と対応 - 運動嫌いや配慮を要する幼児について - 第14回：幼児の怪我や事故の実態と病気の予防と対策 第15回：安全教育・危機管理 - リスクとハザードの相違について - 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：毎回の予習に加え、特に第3回～6回目の事前学習として、自分の幼少期を振り返り、家族等へのヒアリングを行いレポートにまとめる。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で課したテーマ等のレポートを作成し、manaba等に提出する。（学習時間1時間）						
授業方法	DVDを視聴後にグループディスカッションを行う。その後グループごとに得られた内容や問題点、課題をまとめ発表する。それらをふまえ、考察を加えながら講義を行う。また、第4回～7回までの授業は製作したもので模擬授業をおこなう。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどの平常点20%、グループ討議と発表30%、期末試験50%						
履修上の注意	1. 幼・保の免許必修であることから、保育者としての意識をもって積極的に受講すること。 2. 授業回数の3分の2以上の出席であること。						
教科書	勝木洋子他 みらい『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』ISBN978-4-86015-316-8c3037 2014年4月						
参考書	倉真智子他 みらい『子どもが育つ運動遊び』ISBN978-4-86015-379-3c3037 2016年4月 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養						
担当教員	西川 央江					科目ナンバー	T41010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもが健やかに成長・発達するために必要な栄養や食生活について基礎的な知識を学ぶ。また、食育についての理解を深め、正しい食習慣の確立を含めて、子どもの食生活を豊かにすることについて学ぶ。						
授業の概要	この授業では幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された食育に関わる下記の5点について学ぶ。 ①健康な食生活と生活リズムの意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達に応じた調理形態や食生活について理解を深める。③食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。【知識・理解】 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。【知識・理解】 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。【知識・理解】 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活および子どもの食生活の現状と課題） 第2回 栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 第3回 栄養に関する基礎知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第4回 子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第5回 子どもの発育・発達と食生活（2）調乳と離乳食調理に関する演習（レポート作成） 第6回 子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期の心身の発達と食生活 第7回 子どもの発育・発達と食生活（4）学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 第8回 食育の基本と内容（1）保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 第9回 食育の基本と内容（2）食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 第10回 食育の基本と内容（3）食生活指導及び食を通じた保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第11回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）疾病及び体調不良の子どもへの対応 第12回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（3）障害のある子どもへの対応 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（4）災害時の食物アレルギーのある子どもへの対応 まとめ試験 第15回 講義全体の内容の総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、授業内容に関する情報を集める（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点をまとめ、重要箇所を確認する。課題レポートがある場合は作成する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに重要事項を講義・解説する。 演習：調乳と離乳食の調理を実施し、実施時の留意点をレポートにまとめる。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 提出物（リアクションペーパー）30% 課題レポート10% まとめ試験：授業で扱った子どもの食と栄養についての理解度を評価する。授業無い柄まとめ試験の結果の講評を行う。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述的確さを評価する。質問には翌週の授業で開設する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題レポート：実施した演習の留意点を的確にレポートできているかを評価する。レポートの評価後は、コメントして返却し各自にフィードバックする。到達目標（4）（5）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。20分以上の遅刻は欠席として扱います。子どもの食事、栄養、食育に関する報道に関心を持ち情報を集めてください。						
教科書	「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」飯塚美和子・他編集 学建書院 ISBN978-4-7624-5841-5						
参考書	講義内で適宜紹介します						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	子どもの食と栄養						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ－	T41010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもが健やかに成長・発達するために必要な栄養や食生活について基礎的な知識を学ぶ。また、食育についての理解を深め、正しい食習慣の確立を含めて、子どもの食生活を豊かにすることについて学ぶ。						
授業の概要	この授業では幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された食育に関わる下記の5点について学ぶ。 ①健康な食生活と生活リズムの意義と栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達に応じた調理形態や食生活について理解を深める。③食育の基本と内容および食育のための環境と地域社会との連携について理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。【知識・理解】 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。【知識・理解】 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する【知識・理解】 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 5. 関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。【知識・理解・汎用的技能】 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月、厚生労働省）、 「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月、厚生労働省）等						
授業計画	第1回 子どもの健康と食生活の意義（子どもの心身の健康と食生活および食生活の現状と課題） 第2回 栄養に関する基本的知識（1）栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 第3回 栄養に転ずる基礎的知識（2）食事摂取基準と献立作成・調理の基本 第4回 子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 第5回 子どもの発育・発達と食生活（2）調乳と離乳食調理に関する演習（レポート作成） 第6回 子どもの発育・発達と食生活（3）幼児期の心身の発達と食生活 第7回 子どもの発育・発達と食生活（4）学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活 第8回 食育の基本と内容（1）保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価 第9回 食育の基本と内容（2）食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携 第10回 食育の基本と内容（3）食生活指導及び食を通じた保護者への支援、家庭や児童福祉施設における食事と栄養 第11回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）疾病及び体調不良の子どもへの対応 第12回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）食物アレルギーのある子どもへの対応 第13回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（3）障害のある子どもへの対応 第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（4）災害時の食物アレルギーのある子どもへの対応 まとめ試験 第15回 講義全体の内容の総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、授業内容に関係する情報を集める（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点をまとめ、重要箇所を確認する、課題レポートがある時は作成する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：テーマごとに重要事項について講義・解説を行う。 演習：調乳と離乳食の調理を実施し、実施時の留意点をレポートにまとめる。						
評価基準と評価方法	まとめ試験60% 授業内での提出物（リアクションペーパー）30% 課題レポート10% まとめ試験：授業で扱った子どもの食と栄養についての理解度を評価する。授業内でまとめ試験結果の講評を行う。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義についてのコメント・質問・課題への自分の考え）の内容・記述の的確さを評価する。質問には翌週の授業で解説する。到達目標（1）（2）（3）（4）（5）に関する到達度の確認。 課題レポート：実施した演習の留意点を的確にレポートできているかを評価する。レポートの評価後は、コメントして返却し各自にフィードバックする。到達課題（4）（5）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	単位認定は出席3分の2以上で行います。20分以上の遅刻は欠席として扱います。子どもの食事、栄養、食育に関する報道等に関心をもって学習してください。						
教科書	「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」飯塚美和子・他編集 学建書院 ISBN978-4-7624-5841-5						

参考書	講義内で適宜紹介します
-----	-------------

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	個別の教育支援計画論							
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ－	T61030	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	個別の教育支援計画を検討するシステムと検討過程を学ぶ。							
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 「個別の教育支援計画」とは、「障害のある幼児児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として策定されるもので、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であり、教育的支援を行うに当たり同計画を活用することが意図されている（「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」中央教育審議会、平成17年12月）」。 本授業では特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立するものであることへの理解を深めるため、入門期の学生がその合理的配慮を把握しやすい病弱児の模擬事例を用いて、「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を学ぶ。なお、病弱教育の場合、とくに入院した子どもを対象とする場合は、特別支援学校（学級）と入院していなければ在籍している地域の学校（特別支援学校を含む）があるという特殊性を踏まえておきたい。							
到達目標	1）特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立するものであることを自分の言葉で説明できる。 2）「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を説明できる。							
授業計画	第1回：「個別の教育支援計画」と個別の指導計画の役割とPDCAプロセス 第2回：「個別の教育支援計画」を検討するシステムと関与する医療、福祉、労働等の機関の役割 第3回：病弱児の「個別の教育支援計画」の視点と検討過程 第4回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案①幼児 第5回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案②小学生 第6回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案③中学生 第7回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案④高校生 第8回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整①退院時 第9回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整②後遺障害を残しての退院時 第10回：入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整③エンドオブライフケアへの移行時 第11回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」①自宅療養を続ける病弱児 第12回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」②地域の学校において合理的配慮が必要な病弱児 第13回：地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」③成人医療への移行と就労支援 第14回：子どもと家族の情報の扱いと多職種コミュニケーション 第15回：特別支援教育コーディネーターに求められるもの 期末テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習： 事前課題を提示するので、取り組んで授業に参加する。（30分程度） 授業後学習： 適宜、事前課題と授業の振り返りを行う。リアクションペーパーに関する解説を配付するので目を通し、他者（他の受講生）の視点に学ぶことが望ましい。（10分程度）							
授業方法	講義、事前課題の発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。							
評価基準と評価方法	定期試験 80％ リアクションペーパー 20％							
履修上の注意	各回の講義資料及び事前課題は、原則として前の授業までに配付あるいは提示する。 リアクションペーパー及びリアクションペーパー解説は、授業の開始時に配付する。 はじめて考える課題も多いと思われるが、入門期の学修であるので、疑問に感じたこと、自分なりの判断など、自信の有無にかかわらず他者に伝えること、他者の思いに耳を傾け自らを振り返ることを大切にしたい。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	適宜、講義資料を配付する。							
参考書	『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』、文部科学省、2016 『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、（http://k-tanigawa.com） 『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第2集：個別支援計画の立案と実施』、谷川弘治、（http://k-tanigawa.com）							

参考書	・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』、改定第3版、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9 ・『特別支援教育の基礎・基本』、新訂版、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-86371-297-3 ・『病気の子どもの教育支援ガイド』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-8637-1406-9 ・『病弱教育における各教科の指導』、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社、978-4-8637-1333-8 ・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7 ・『18トリソミー 子どもへのよりよい医療と家族支援をめざして』、櫻井浩子・橋本洋子・古庄和己（編）メディカ出版、978-4-8404-5314-1 ・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	社会的養護Ⅰ						
担当教員	大西 能成					科目ナンバー	T41040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的養護の概要を学ぶ						
授業の概要	保育所保育指針に則って、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う必要性について学ぶとともに、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」という社会的養護の理念について理解する。そのうえで、社会的養護がどのようにこれまでに展開されてきたのか、また、現在どのような制度・方法の下で行われているのか、といった基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。						
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。						
授業計画	第1回オリエンテーション、社会的養護とは 第2回社会的養護の基本理念と原理（1）：理念・理論 第3回社会的養護の基本理念と原理（2）：原理・原則 第4回 社会的養護の現状 第5回社会的養護の歴史 第6回子どもの権利擁護 第7回社会的養護の制度と法体系 第8回社会的養護の仕組みと実施体制 第9回社会的養護の領域と概要（1）：施設養護 第10回社会的養護の領域と概要（2）：家庭（的）養護 第11回社会的養護に関わる専門職と職業倫理 第12回 社会的養護とソーシャルワーク 第13回社会的養護の課題（1）：新しい社会的養育ビジョン 第14回社会的養護の課題（2）：親・家族、地域支援など 第15回まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業該当範囲を参考書で予習すること（60分） 授業後学習：授業で学んだ内容を確認、整理し、リアクションペーパーを作成・提出すること（60分） その他：日頃から、社会的養護（児童虐待、児童福祉施設、里親など）に関心を持ち、新聞、テレビ、書籍等が扱う問題等について自分なりの考えを持つこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点：40％ 毎回、授業での学び、感想、興味、関心などに関するコメント、質問等についてリアクションペーパーを提出（原則メール）→各回の到達度等を確認。あわせて質問事項等については、次回授業時にコメント また、レポートの提出を求める場合がある。 試験：60％ 筆記試験により授業全体の目標に対する到達度を確認						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う						
教科書	授業時に資料（プリント）配布（出席者のみ）						
参考書	みらい×子どもの福祉ボックス「社会的養護」（みらい）ISBN 978-4-86015-418-9 監修：喜多一憲 編集：堀場純矢 MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉「社会的養護」（ミネルヴァ書房）ISBN 978-4-623-07930-8 監修：倉石哲也/伊藤嘉余子 編著：伊藤嘉余子/福田公教						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	小学算数						
担当教員	尾上 昭・大下 卓司					科目ナンバー	T51010
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数 1.0
授業のテーマ	算数の楽しさを自ら体験する						
授業の概要	学習者が算数的・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考えることができるように日常生活で用いる算数の基礎的事項をわかりなおす。こうした過程で、教師として指導する際のポイントを確認する。学生自らの算数数学の学びを土台に数の不思議さや面白さ、図形の美しさ、学習内容の系統性や移行・発展性の内容などを、数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用という小学校学習指導要領における各領域から考察し、理解していく。これにより、日常の事象を数理的に捉え、データに基づいて論理的・客観的に思考し、図や式、言葉として、簡潔・明瞭・的確に表す力を育成する。この科目はオムニバス方式とし、以下のように開講する。 (オムニバス方式／全15回) (尾上 昭／12回) 計算のポイント、測定のポイント、関数関係のポイント、グラフやデータの活用のポイントについて数学と関連付けながら学ぶ。日常生活と算数のかかわりについて学び、大人として必要な数理的な思考について学ぶ。また、誤って理解されることが多い内包量と概念などをトピックに、算数数学をわかりなおす過程を通じて、子どもが算数を学ぶ過程を考察する。 (大下 卓司／3回) 図形の性質とポイント、面積と体積の関係などについて理解しなおす。						
到達目標	算数の基本的な内容を理解するとともに、算数科教育の研究手法や楽しさを体得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業内容説明。算数科の目標・内容。(担当：尾上) 第2回 小数や分数とは何か？その意味と計算のポイント(担当：尾上) 第3回 ことばと演算(加減乗除)の関係。(担当：尾上) 第4回 数の世界と量の世界(担当：尾上) 第5回 測定とは何か？測定のポイント(担当：尾上) 第6回 内包量とは何か？①パーセントを理解する(担当：尾上) 第7回 内包量とは何か？②速度や密度を使いこなす(担当：尾上) 第8回 関数とは何か？比例、反比例、一次関数を中心に(担当：尾上) 第9回 グラフやデータの活用のポイント(担当：尾上) 第10回 子どもの認知発達と算数数学(担当：尾上) 第11回 幼稚園児の遊びと算数の関係(4領域や算数的活動)を考える。(担当：尾上) 第12回 図形の性質とポイント(担当：大下) 第13回 図形と面積(担当：大下) 第14回 算数・数学教育研究の歴史(担当：大下) 第15回 試験と授業全体の振り返り(担当：尾上)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定した参考書等で下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理してレポートを作成し、松蔭manabaに投稿する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義：授業テーマに基づき、グループまたはペアによる課題解決型のディスカッションを行う。グループワークやペアワークの結果発表やプレゼンテーションを踏まえて、重要事項について講義・解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業毎の課題20% 試験80%						
履修上の注意	・ 関心や意欲を高め、自分なりの意見を持って授業に臨むこと。 ・ 2／3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領 (平成29年3月)						

参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 算数編 (平成29年7月)
-----	---------------------------------

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	小学生生活						
担当教員	秋山 麗子				科目ナンバー	T51020	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	生活科の創設の背景や意図、ねらい及び歴史的な変遷について学ぶ						
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小1プロブレムのことが問題にされている。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されている。 また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育とを連携するとともに、遊びを取り入れた学習を行うなど小学校への円滑な移行が図られるように、小学校入門期の第1、2学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいく。						
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解するとともに、自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。幼児教育と初等教育の接続として生活科を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第2回 生活科学習の想起と特徴 第3回 生活科の基礎研究としての大正自由主義教育 第4回 生活科の基礎研究としてのコア・カリキュラム 第5回 戦後の教育の主な流れ：学習指導要領の変遷 第6回 生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第7回 生活科の特徴：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第8回 生活科の目的や目標：低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第9回 生活科の内容：第1、2学年における内容構成・留意事項 第10回 生活科の学習：具体的な学習の流れ及び学習の実際 第11回 生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ 第12回 生活科のカリキュラム構成：単元や年間指導計画の作成 第13回 生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容 第14回 小学校第3学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第15回 まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：22日時間）						
授業方法	・講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、生活科の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。						
評価基準と評価方法	・平常点50%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・レポート50%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価						
履修上の注意	・授業で使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年7月）						

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	視覚障害教育総論							
担当教員	和角 輝美子					科目ナンバ－	T61010	
学期	後期 前半		曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	視覚障害の心理と生理、特性の基本的知識を理解し、視覚障害のある子どもの指導やその実際の基礎を学ぶ。							
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 視覚障害の概念、特性や視覚障害教育の基礎知識を学ぶと共に、視覚障害のある子どもの発達の特徴を学びつつ、特別支援教育における視覚障害教育の位置や役割を理解する。視覚障害児教育の歴史を概観しつつ、視覚障害児教育の指導法や盲学校（視覚特別支援学校）における、幼稚部、小学部、中学部、高等部の教育課程や教育の実際を学ぶ。さらに視覚障害のある子どもの発達を理解すると共に、学びの特徴や、それを支援するための様々な方法について学ぶ。また視覚障害者の就労や進学などの進路保障についても知る。特別支援学校の教育現場や、インクルーシブ教育現場での視覚障害児の困り感や進学についての事例を通して、視覚障害教育が抱える問題を考える。							
到達目標	1. 視覚障害の基礎的な生理と病理を理解し、視覚障害のある子どもの感覚補償の観点から見た行動とその支援の方法を説明できる。 2. 視覚障害教育の基礎的な指導法やその実際を理解し、視覚障害のある子どもの発達に応じた指導の在り方を自分なりに検討できる。 3. 特別支援教育における視覚障害教育の課題と展望を自分なりに検討できる。							
授業計画	第1回：視覚障害の心理特性及び発達 第2回：特別支援教育における視覚障害教育の位置づけ 第3回：視覚障害の心理と病理 第4回：視覚障害教育の歴史 第5回：視覚障害のある子どもの障害特性に応じた支援①—発達の理解と認知的理解 第6回：視覚障害のある子どもの障害特性に応じた支援②—ロービジョン教育と盲教育 第7回：視覚障害のある人の進学、キャリア教育、就労 第8回：インクルージョン時代における視覚障害教育の課題と展望 定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前回の授業を踏まえて次回の授業を行なうので、各回の授業を受けた後、その授業のノートや配布資料を見直して復習してください（学習時間1時間）。							
授業方法	講義と視覚障害体験（アイマスク装用による全盲体験、ロービジョン体験キットを利用した弱視体験）を行います。							
評価基準と評価方法	定期試験 40％ レポート 60％							
履修上の注意	進度によって、授業のスケジュールを調整することがあります。第1回目の授業時に説明します。							
教科書	毎回の授業資料を作成し、それを基に授業を行なう。							
参考書	適宜、指示する。							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	重度重複障害教育総論						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ－	T61050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	重度重複障害のある子どもの理解，重度重複障害児の教育課程，教育内容，具体的指導の展開についての基本的な視点を学ぶことを通して，教育現場における実践力を身につける。						
授業の概要	授業の概要 本科目は特別支援教育に関する科目である。 重度重複障害児教育の歴史，重度重複障害についての基礎的な理解，重度重複障害のある子どもの教育目標，教育内容・方法，教育課程のあり方について概説を行う。特別支援学校の実践事例を紹介しながら，重い障害のある子どもへの理解や教育方法のあり方について学生が主体的に学べるよう留意する。また，訪問教育および医療的ケアについても概説するとともに，学校教育終了後の支援や地域生活支援についても概説する。講義では，重度重複障害児への指導の実際を写真や映像等で紹介することや重症心身障害児施設職員や重度重複障害児の家族をゲストに招いて講話を聴く機会を企画し，学生らが重度重複障害児者への教育に共感できるよう図っていく。						
到達目標	1. 重度重複障害のある子どもたちに対する基本的理解が可能になり，重い障害のある子どもたちへの共感的態度を身につける。 2. 重度重複障害学級の位置づけと教育の現状を理解し，教育課程のあり方を学ぶ。 3. 「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」における指導の形態と指導計画の立て方を学ぶ。 4. 関係機関との連携の重要性および個別的教育支援計画の有効性について理解する。						
授業計画	第1回：重度重複障害児教育の歴史 第2回：重度重複障害の概念と子ども理解 第3回：重度重複障害児への教育指導 第4回：重度重複障害児の教育課程の概説 第5回：教育課程①「知的障害を併せ有する児童生徒の場合」 第6回：教育課程②「障害の状態により特に必要のある児童生徒の場合」 第7回：教育課程③「訪問教育の場合」 第8回：指導の形態と指導計画①「自立活動を主とした指導」 第9回：指導の形態と指導計画②「領域・教科を合わせた指導」 第10回：特別支援学校における重度重複障害児への指導の実際 第11回：訪問学級の指導の実際 第12回：個別的教育支援計画と個別の指導計画 第13回：学級経営と他職種との連携，医療的ケア 第14回：危機管理について 第15回：関係諸機関との連携						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し，事前に指定するキーワードについて，指定された参考書等で下調べをする（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し，松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：各回テーマに基づき，グループもしくはペアでのディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの結果発表を踏まえて，各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	①毎回の小レポートによる評価（授業内容の概要ならびに感想・意見をまとめる）20% ②3つのレポート提出と個別発表（文献収集等への意欲，発表内容の工夫等）45% ③定期試験35%						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2／3に満たないものには，原則単位認定は行わない。遅刻，早退，途中退席等は，やむを得ない場合を除き，認めない。毎回の提出物，レポートの期限は厳守すること。						
教科書	『重い障害を生きるということ』，初版，高谷清，岩波書店，978-4004313359 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示）						
参考書	・『特別支援学校幼稚部教育要領』（平成29年4月告示） ・『特別支援学校高等部学習指導要領』（平成30年度告示予定） ・『特別支援学校学習指導要領解説』幼稚部・小学部・中学部（平成30年3月） ・『障害の重い子どもの指導Q&A』，初版，全国特別支援学校肢体不自由教育校長会，ジアース教育新社，978-4863711730 ・『重症児教育』，初版，兵庫県重症心身障害児教育研究会実行委員会編，クリエイツかもがわ，978-4902244236 ・『障害の重い子どもの教育実践ハンドブック』，初版，大久保哲夫，三島敏男，竹沢清労働旬報社，978-4845104659 ・『障害の重い子どもの授業づくり』，飯野順子，授業づくり研究会，I&Mシリーズ ・『重症児の発達と指導』，初版，細渕富夫，全国障害者問題研究会出版部，978-4881344941						

参考書	・『瞳輝いて 重症心身障害児の教育』，初版，藤本文朗，白石正久，上田和美，全国障害者問題研究会出版部，978-4881349137 ・『重症児の心に迫る授業づくり—生活の主体者として育てる』，初版，三木裕和，原田文孝，白石正久，河南勝，株式会社かもがわ出版，978-4876993161
-----	---

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	スポーツと健康						
担当教員	藤木 大三					科目ナンバー	T01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。						
授業の概要	授業は、主に教室での講義を中心に進める。また学期中、体育館等での履修学生自身の能動的な学び（Active Learning）の機会も設けながら、学習内容をより実践的に体得していく、という形式で行う。 また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」、「身体活動」、および「健康」に関する授業外自己学習を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。 1. 「スポーツ関連書」読後感想 2. 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 3. 「スポーツ実体験（グループワーク）」と実践報告						
到達目標	本授業を通して、 1. 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることが出来る。 2. 実技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることが出来る。 3. 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることが出来る。						
授業計画	第1回：授業概要オリエンテーション＋講師自己紹介 第2回：体力についての再認識 第3回：体力について 第4回：筋力について 第5回：筋力についての基礎的知見を深める 第6回：授業フィードバックとしての実技体験1 第7回：ダイエットについて 第8回：知っておきたいダイエットの真実 第9回：脳の構造について 第10回：脳の構造から見た男女の相違について 第11回：授業フィードバックとしての実技体験2 第12回：子どもから健やかな老後へ 第13回：子どもから健やかな老後へのいざない 第14回：選択コース発表会1 第15回：選択コース発表会2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本授業では、グループワークを通しての講義内容の共通理解のみならず、他者を受容する実践学習を試みる。そのため、必然的に毎週授業で学んだ内容についての資料収集やパワーポイント作成等、当該授業後1～2時間程度の主体的な授業復習と資料作成に向けての共同作業が不可欠となることを、十分に理解しておいてもらいたい。						
授業方法	授業は、講義とグループワークを中心に進める予定である。また学期中複数回に渡り、主に体育館にて講義で学んだ内容をより深めるために、実践形式の講義授業も予定している。						
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松陰manaba経由での期末レポート提出 10%						
履修上の注意	まず授業に対して、前向きかつ積極的に取り組んでもらいたい。また、実践形式授業における技能の優劣は一切問わない。各自、身体活動出来る喜びを持って、本授業に臨んでいただきたい。						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	スポーツと健康						
担当教員	藤木 大三					科目ナンバー	T01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本学学生以前に、社会の一員として豊かで健康的な社会生活を送るために、不可欠な基礎要件としての資質に関する認識と自己の実現を、様々な身体活動や講義を通して学習、実践していくことを目的とする。						
授業の概要	授業は、主に教室での講義を中心に進める。また学期中、体育館等での履修学生自身の能動的な学び（Active Learning）の機会も設けながら、学習内容をより実践的に体得していく、という形式で行う。 また履修学生全員が、以下のいずれかの方法で「スポーツ」、「身体活動」、および「健康」に関する授業外自己学習を行い、学期期間中に全体へのプレゼンテーションを行うことを義務付ける。 1. 「スポーツ関連書」読後感想 2. 「スポーツ実体験（個人）」と実践報告 3. 「スポーツ実体験（グループワーク）」と実践報告						
到達目標	本授業を通して、 1. 普段の学生生活から、より健康への意識を高めることが出来る。 2. 実技体験を通して、履修学生同士が今以上にコミュニケーションを深めることが出来る。 3. 他にはないユニークな授業実践を通して、本学学生としてのアイデンティティを高めることが出来る。						
授業計画	第1回：授業概要オリエンテーション＋講師自己紹介 第2回：体力についての再認識 第3回：体力について 第4回：筋力について 第5回：筋力についての基礎的知見を深める 第6回：授業フィードバックとしての実技体験1 第7回：ダイエットについて 第8回：知っておきたいダイエットの真実 第9回：脳の構造について 第10回：脳の構造から見た男女の相違について 第11回：授業フィードバックとしての実技体験2 第12回：子どもから健やかな老後へ 第13回：子どもから健やかな老後へのいざない 第14回：選択コース発表会1 第15回：選択コース発表会2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本授業では、グループワークを通しての講義内容の共通理解のみならず、他者を受容する実践学習を試みる。そのため、必然的に毎週授業で学んだ内容についての資料収集やパワーポイント作成等、当該授業後1～2時間程度の主体的な授業復習と資料作成に向けての共同作業が不可欠となることを、十分に理解しておいてもらいたい。						
授業方法	授業は、講義とグループワークを中心に進める予定である。また学期中複数回に渡り、主に体育館にて講義で学んだ内容をより深めるために、実践形式の講義授業も予定している。						
評価基準と評価方法	授業平常点 60 % 個人課題 30% 松陰manaba経由での期末レポート提出 10%						
履修上の注意	まず授業に対して、前向きかつ積極的に取り組んでもらいたい。また、実践形式授業における技能の優劣は一切問わない。各自、身体活動出来る喜びを持って、本授業に臨んでいただきたい。						
教科書	特になし						
参考書	特になし						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	楽しい理科実験						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	T51210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、高校までは自身で能動的に実験をする機会は少なく、実験に苦手意識を持つ初等教育の教員は多い。この授業ではそれぞれの実験を学生自身が行うことにより、理科実験の楽しさを体験する。						
授業の概要	理科の面白さの1つに実験がある。しかしながら、小学校から高校までは、実験を行うとしても指示をされた実験であることが多く、自身で自ら仮説を設定し、実験計画を立て、実験し、結果を記録し、仮説を検証するといった能動的に実験をする機会は少ない。そのため、実験に苦手意識を持つ、小学校の教員は数多くいる。この授業では、学生自身が実験を能動的に行うことにより、理科実験の楽しさを体験するとともに、実験の基礎的な知識や技術を磨く。						
到達目標	・理科実験を自身が楽しむ。 ・将来、子どもたちに見せられるようになること。 ・実験器具、操作などの基本事項を修得すること。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：理科実験の基本 第2回：身の回りの液体を調べる：液性と指示薬 第3回：万華鏡、望遠鏡づくり：光の性質 第4回：大気圧を視る：手作り真空ポンプ 第5回：液体窒素による低温実験：物理変化と3態 第6回：すぐできる結晶：物質の溶解度 第7回：発泡スチロールスタンプ：環境にやさしい科学 第8回：自動で記録する温度計：ICT機器の利用 第9回：葉脈の染づくり：タンパク質の性質 第10回：カルメ焼き：炭酸水素ナトリウムの熱分解 第11回：スライムづくり：高分子の性質 第12回：電気クラゲ：静電気の性質と利用 第13回：顕微鏡の世界 第14回：目で見えるDNA：DNA抽出実験 第15回：電気パン：ジュール熱の利用						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaに講義資料を掲載しておくので、前回の実験で扱った実験内容、方法の復習をして実験に臨むこと（学習時間2時間） 授業後学習：各回で行った実験に対し、考察、レポートの作成を行う。作成したレポートは、次の回までに提出すること（学習時間2時間）						
授業方法	実験：基本事項について説明した後、ペアもしくは個人で実験を行う。ディスカッションを通じて考察し、レポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の成果物20%、各回のレポート80%。						
履修上の注意	特になし						
教科書	実験テキストを毎回配布						
参考書	無し						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	聴覚障害教育総論						
担当教員	谷 充弘					科目ナンバー	T61020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	聴覚障害の心理と生理、特性の基本的知識を理解し、聴覚障害のある子どもの指導やその実際の基礎を学ぶ。						
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 聴覚障害の機序や聴覚障害のある子どもの言語発達および心理特性を理解する。さらに聴覚障害児教育の歴史を概観しつつ、聴覚障害児教育の指導法や、ろう学校（聴覚障害特別支援学校）における、幼稚園、小学部、中学部、高等部の教育課程や教育の実践を学ぶ。また聴覚障害のある人の権利保障やろう文化の発展を学びつつ、聴覚障害領域で幅広く議論される、インテグレーションおよびインクルージョンの考え方にも触れる。また可能であれば、ろう学校に訪問し、授業観察や聴覚障害のある子どもたちと交流することを通して実践的に学ぶことを促す。						
到達目標	1. 聴覚障害の基礎的な整理と病理を理解し、聴覚障害のある子どもの言語発達及び心理特性を説明できる。 2. 聴覚障害教育の基礎的な指導方法やその実践を理解し、聴覚障害のある子どもの発達に応じた指導の在り方を自分なりに検討できる。 3. 特別支援教育における聴覚障害教育の課題と展望を自分なりに検討できる。						
授業計画	第1回：聴覚障害の心理特性 第2回：聴覚障害のある子どもの心理特性に応じた支援 第3回：特別支援教育における聴覚障害教育の位置づけ 第4回：聴覚障害教育の歴史 第5回：ろう文化と権利保障 第6回：聴覚障害のある人のインクルージョン 第7回：聴覚障害教育の指導法と実際 第8回：インクルージョン時代における聴覚障害教育の課題と展望 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第1回の授業を除き、次の授業内容の資料を配付するので、不明な用語などを調べ、内容が不明な点は質問が出来るように準備しておく。同一講座を受講している他の学生とディスカッションをするのも大切です。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業で配付された資料を参考にし、取り上げた内容の要点と重要箇所を確認整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	授業の前半では、その日のテーマを解説します。 授業の後半では、各回のテーマに応じた実例を示すので、その最善と思える対処方法につき、3～5名程度のグループによるディスカッションで結論を導きだし発表する。 発表後は、個人ごとに当日の検討過程をまとめ、意見をつけてレポートとして提出をする。						
評価基準と評価方法	定期試験 40% レポート 60%						
履修上の注意	1. 講義資料等は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌授業時に限り本人から申し出があれば配布する）。 2. 理由の如何に関わらず、全授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受講資格を失うものとする。						
教科書	毎回の授業資料を作成し、それを基に授業を行なう。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育原論						
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿					科目ナンバー	T61040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	特別支援教育の基礎理論を学び、インクルーシブ教育としての特別支援教育の特質と課題について理解する。						
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 京都盲啞院開設（1878年）以来の我が国戦前の障害児教育から、日本国憲法・教育基本法（1947年）の下での戦後の特殊教育及び特別支援教育に至るまでの理念、思想及び歴史を学ぶ。その際、障害概念の国際的展開についても学ぶ。さらに通常学級に在籍する発達障害のある幼児児童生徒も教育対象に含めた特別支援教育の制度、経営、社会的側面について、国内外における共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の動向と併せて学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （金丸彰寿/5回） 授業の導入、特別支援教育及びインクルーシブ教育の歴史に関する学修を支援する。 （渡部昭男/10回） 特別支援教育の理念及び思想、制度、経営、社会的側面に関する学修を支援する。						
到達目標	1. 特別支援教育及びインクルーシブ教育の理念及び目的を学び、今後の展望や課題を考えることができる。 2. 特別支援教育及びインクルーシブ教育に至るまでの障害児教育の歴史及び思想を学び、主要な事項を説明できる。 3. 特別支援教育の制度、経営、社会的側面に関する主要事項を学び、説明することができる。						
授業計画	第1回：障害概念の歴史的・国際的展開（ICIDHからICF）（担当：渡部昭男） 第2回：インクルーシブ教育と特別支援教育～インテグレーションからインクルージョンの歴史的発展（担当：渡部昭男） 第3回：障害者権利条約と合理的配慮（担当：渡部昭男） 第4回：特別支援教育の制度①～特別支援学校、特別支援学級、通常学級における教育（担当：渡部昭男） 第5回：特別支援教育の制度②：障害のある子どもの就学（担当：渡部昭男） 第6回：特別支援教育の制度③～個別的教育支援計画と個別の指導計画（担当：渡部昭男） 第7回：特別支援教育の制度④～自立活動（担当：渡部昭男） 第8回：戦前の障害児教育史（担当：金丸彰寿） 第9回：戦後の障害児教育史①～発達保障論の成立と展開（担当：金丸彰寿） 第10回：戦後の障害児教育史②～養護学校義務制（1979年）（担当：金丸彰寿） 第11回：戦後の障害児教育史③～「交流教育」政策と「共同教育」実践運動（担当：金丸彰寿） 第12回：戦後の障害児教育史④～インクルーシブ教育と「交流及び共同学習」（担当：金丸彰寿） 第13回：青年期における障害者支援の理念と課題～高等教育段階における障害学生支援（担当：渡部昭男） 第14回：発達支援・地域づくりの一環としての特別支援教育～専攻科の取り組み（担当：渡部昭男） 第15回：総括～インクルーシブ教育としての特別支援教育の意義と課題（担当：渡部昭男） 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	ミニレポート（30%）、定期試験（70%）						
履修上の注意	1. 特別支援学校教員免許状の取得を希望する学生は必ず受講すること。また、この授業に関心のある学生の受講も歓迎する。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさない所以要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。						
教科書	・『特別支援教育の基礎と動向 改訂版』、大沼直樹・吉利宗久編、培風館、978-4-563-05227-0 ・また各授業において、別途、レジュメや資料を配布する。						

参考書	・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』，玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ，ISBN978-4-86342-155-4 ・『事例で学ぶ 発達障害者のセルフアドボカシー：「合理的配慮」の時代をたくましく生きるための理論と実践』，片岡美華・小島道生編，金子書房，ISBN978-4-7608-2661-2 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』，渡部昭男編，三学出版，ISBN978-4-903520-70-4
-----	--

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	特別支援教育と共生社会							
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	T61170	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生きることと死ぬことをめぐる人々の思い、いのちを支える人々の努力と思いに目を向け、子どもたちにいのちの大切さを伝えるためになすべきことを考える。							
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 教師はいのちと向き合い、発達しようとする傾向を子どもの中に見つけ、育む専門職である。現代社会は子どものいのちを守る仕組みを作り上げ、新生児死亡率等を減少させるなど大きな成果を得てきた。一方で事件、事故、災害、自殺、難病など、さまざまな理由で失われていくいのちもある。全般に、人々が子どもの死による「痛み」と向き合う機会が減少する中、遺族は思いを受け止めてもらえないもどかしさや孤立感をいだくことが少なくない。本講は、こうした状況を遠くの出来事ではなく、身近なこととして捉える機会を提供する。特別支援教育を担う教員を目指すものとして、主に、病気や障害によって、いのちと向き合わざるをえない子どもと家族と支援者とののかかわりを取り上げ、ロールプレイやグループディスカッション等をおして支援者の視点を学ぶ。クラスメイト、遺族、親を亡くした子どもなど視野を広げ、教師としてできることを探求し、共生社会に求められるものを考察していく。							
到達目標	1. 生きることと死ぬことをめぐって生ずる人々の思いに耳を傾けることができ、自らの思いにも耳を傾けることができるようになる。 2. 病気や障害のある子どものもつ生きようとする傾向とそれを支える人々の相互作用に目を向け、生きることとを支援するとはどういうことかを自分なりに説明できる。 3. 病気や障害のある子どもはいのちを支える現場で生ずるさまざまな状況、葛藤に目を向け、判断のための視野を広げる必要を自覚する。 4. いのちの教育の動向と課題を理解し、特別支援教育を担う教師を目指すものとして仲間と協力して対象と場面を想定した実践を計画、試行して、振り返ることができる。							
授業計画	第1回：子どものいのちをめぐる人々の努力と問題状況 第2回：いのちと向き合う①「いのちを迎える」 第3回：いのちと向き合う②「病を生きる」 第4回：いのちと向き合う③「死を迎える」 第5回：いのちと向き合う④「いのちと別れる」 第6回：病気や障害のためのいのちと向き合う子どもと家族を支える①「新生児医療の現場から」 第7回：病気や障害のためのいのちと向き合う子どもと家族を支える②「子どものホスピスの現場から」 第8回：病気や障害のためのいのちと向き合う子どもと家族を支える③「重症心身障害児者の療育の現場から」 第9回：病気や障害のためのいのちと向き合う子どもと家族を支える④「死を迎えた子どもの家族と友達を支える」 第10回：通常教育と特別支援教育におけるいのちの教育の動向と課題 第11回：いのちの授業の計画と実施①「いのちと向き合う子どもとクラスメイトをつなぐ授業」 第12回：いのちの授業の計画と実施②「いのちと向き合う子どもたちに提供する授業における病気や死のテーマの扱い」 第13回：いのちの授業の計画と実施③「いのちと向き合う子どもたちに提供するいのちの授業」 第14回：いのちの授業の計画と実施④「クラスメイトを亡くした子どもたちのためのいのちの授業」 第15回：いのちの授業の計画と実施⑤「思いを共有し、語り継ぐためにできること」 第11回から第15回は、グループを構成し、仲間と協力し、特別支援教育の現場を想定したいのちの授業を計画、試行する。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前課題を提示することがあるので、取り組んで参加する。（60分程度） 授業後学習：授業中に生じた思い、注目した他者の視点、今後大切にしていきたい視点などをノートに整理しておきたい（30分程度）							
授業方法	講義及びグループワーク							
評価基準と評価方法	小レポート45% 発表10% レポート45%							

履修上の注意	各回の講義資料及び事前課題は原則として前の授業までに配付あるいは提示する。 小レポート、レポートについては第1回の授業時に説明するので、計画的に取り組むこと。 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。
教科書	適宜指示する。
参考書	・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・『よく生き よく笑い よき死と出会う』アルフォンス・デーケン、新潮社、978-4-1046-2501-7 ・『死とどう向き合うか』、新版、アルフォンス・デーケン、NHK出版、978-4-1408-1500-1 ・『永遠の別れ 悲しみを癒やす智恵の書』、エリザベス・キューブラー・ロス、日本教文社、978-4-5310-8159-2 ・『悲嘆カウンセリング：臨床実践ハンドブック』、ウォーデン、JW、誠信書房、978-4-4144-1445-5 ・『死別体験 研究と介入の最前線』、シュトレーベ、MSほか、誠信書房、978-4-4144-1454-7 ・『輝く子どものいのち こどもホスピス・癒しと希望』、鍋谷まこと、いのちのことば社、978-4-2640-3348-6 ・『私たちの先生は子どもたち！ 子どもの「悲嘆」をサポートする本』リンダ・エスピー、青海社、978-4-9022-4912-5 ・『赤ちゃんの死へのまなざし 両親の体験談から学ぶ周産期のグリーフケア』、竹内正人（編）、中央法規出版、978-4-8058-3381-0 ・『いのちのおはなし』、日野原重明、講談社、988-4-0621-3793-5 ・『明日をつくる十歳のきみへ 一〇三歳のわたしから』、日野原重明、富山房インターナショナル、978-4-9051-9490-3 ・『尾木ママのいのちの授業』、全五冊、ポプラ社、978-4-5919-1652-0 ・『母と子と家族のためのいのちの授業』、寺田恵子、ライフサポート社、978-4-9040-8432-8 ・『大人のための「いのちの授業」』、鈴木中人、致知出版社、978-4-8009-1159-9 ・『このあと どうしちゃおう』、ヨシタケシンスケ、ブロンズ社、978-4-8930-9617-3 ・『わすれられないおくりもの』、スーザン・バーレイ、評論社、978-4-5660-0264-7 ・『ぐりとぐらとすみれちゃん』、なかがわりえこ、福音館書店、978-4-8340-0633-9 ・『うまれてきてくれてありがとう』、にしもとよう、童心社、978-4-4940-0751-6 ・『ねこのき』、長田弘、クレヨンハウス、978-4-9063-7959-0 ・『くまとやまねこ』、湯本香樹実、川出書房新社、978-4-3092-7007-4 ・『なみだ』、細谷亮太、ドンボスコ、978-4-8862-6515-9

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	特別支援教育入門							
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿					科目ナンバー	T01080	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。							
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。							
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 (3) 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。							
授業計画	第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。							
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	定期試験（70％）・レポート（30％）							
履修上の注意	1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないの要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。							

教科書	『特別支援教育の基礎と動向 改訂版』，大沼直樹・吉利宗久編，培風館，ISBN978-4-563-05227-0
参考書	・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』，玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ，ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』，渡部昭男編，三学出版，ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育入門						
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿					科目ナンバー	T01080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。						
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。						
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。						
授業計画	第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	定期試験（70％）・レポート（30％）						
履修上の注意	1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさない所以要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。						

教科書	『特別支援教育の基礎と動向 改訂版』，大沼直樹・吉利宗久編，培風館，ISBN978-4-563-05227-0
参考書	・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』，玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ，ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』，渡部昭男編，三学出版，ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育入門						
担当教員	渡部 昭男・金丸 彰寿					科目ナンバー	T01080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。						
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。						
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。						
授業計画	第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	定期試験（70％）・レポート（30％）						
履修上の注意	1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさない所以要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。						

教科書	『特別支援教育の基礎と動向 改訂版』, 大沼直樹・吉利宗久編, 培風館, ISBN978-4-563-05227-0
参考書	・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ－	T41350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。						
授業計画	第1回：子どもと美術ー領域表現と子どもの美術（造形）ー 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業で必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ－	T41350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。						
授業計画	第1回：子どもと美術－領域表現と子どもの美術（造形）－ 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむ－まとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業に必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	教育学科専門教育科目							
科目名	保育原理							
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	T41050	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のPDCA、実践の在り方、保育者の役割							
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。							
到達目標	(1) 保育所、認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。							
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育ってほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まっぴぐり実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験をもつようにしてほしい。							
授業方法	講義と実習、ディスカッション							
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点							
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。							
教科書	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
参考書	必要に応じて示します。							

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	T41050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のPDCA、実践の在り方、保育者の役割						
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。						
到達目標	(1) 保育所・認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法（1）—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法（2）—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育ってほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まっぼくり実習（子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション） 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ボランティア等で、保育現場での子どもの生活や遊びにかかわる経験をもつようにしてほしい。						
授業方法	講義と実習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点						
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取るできません。						
教科書	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ－	T41020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の認知・認識、ことばと思考、人間関係と自我の発達と内面形成						
授業の概要	第一に保育を実践するために必要な発達理論など、心理学の基礎知識を理解することで乳幼児の発達を捉えるための視点をもつ。第二に乳幼児の発達に関わる心理学の基礎知識に基づいて、目の前にいる子どもの行動を理解して、養護と教育の一体性や発達に即した援助を行うための力を習得する。第三に乳幼児期における学びの過程・特性を踏まえて、周囲の人間との関わりがもつ重要性に配慮した指導計画を作成できる力を身に付ける。						
到達目標	乳幼児の心身の発達及び学びの過程について、基礎的な理論や知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。乳幼児の子どもの姿と発達過程を理解し、保育における子ども生活と育ちを理解する。						
授業計画	第1回：子どもの保育と心理学—心理学から何を学ぶのか 第2回：保育の本質 第3回：子どもの発達と育ちの理解 第4回：子どもの生活と学習・学び・意欲 第5回：新生児期・乳児期の子どもの発達 第6回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達 第7回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達と心の芽生え 第8回：乳幼児期の子どもの自我の芽生えと形成 第9回：乳幼児期の子どもの遊びと社会性の発達 第10回：乳幼児期の子どものことばと発達、および、その指導 第11回：発達の気がかりな子ども 第12回：保護者の理解と支援 第13回：地域環境の活用と人材との連携 第14回：養育者・保育者の養育性と専門性 第15回：全体のまとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	乳幼児期の子どもの発達の理解を深めるために、実際の子どもと触れる機会を持つようにして欲しい。						
授業方法	講義とワーク						
評価基準と評価方法	ワークシート 40点 テスト 60点						
履修上の注意	乳幼児に興味を持ち、現実の子どもの姿に触れる機会を持って、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバー	T41020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の認知・認識、ことばと思考、人間関係と自我の発達と内面形成						
授業の概要	第一に保育を実践するために必要な発達理論など、心理学の基礎知識を理解することで乳幼児の発達を捉えるための視点をもつ。第二に乳幼児の発達に関わる心理学の基礎知識に基づいて、目の前にいる子どもの行動を理解して、養護と教育の一体性や発達に即した援助を行うための力を習得する。第三に乳幼児期における学びの過程・特性を踏まえて、周囲の人間との関わりがもつ重要性に配慮した指導計画を作成できる力を身に付ける。						
到達目標	乳幼児の心身の発達及び学びの過程について、基礎的な理論や知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。乳幼児の子どもの姿と発達過程を理解し、保育における子ども生活と育ちを理解する。						
授業計画	第1回：子どもの保育と心理学—心理学から何を学ぶのか 第2回：保育の本質 第3回：子どもの発達と育ちの理解 第4回：子どもの生活と学習・学び・意欲 第5回：新生児期・乳児期の子どもの発達 第6回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達 第7回：乳幼児期の子どもの身体・運動の発達と心の芽生え 第8回：乳幼児期の子どもの自我の芽生えと形成 第9回：乳幼児期の子どもの遊びと社会性の発達 第10回：乳幼児期の子どものことばと発達、および、その指導 第11回：発達の気かりな子ども 第12回：保護者の理解と支援 第13回：地域環境の活用と人材との連携 第14回：養育者・保育者の養育性と専門性 第15回：全体のまとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	乳幼児期の子どもの発達の理解を深めるために、実際の子どもと触れる機会を持つようにして欲しい。						
授業方法	講義とワーク						
評価基準と評価方法	ワークシート 40点 テスト 60点						
履修上の注意	乳幼児に興味を持ち、現実の子どもの姿に触れる機会を持って、実践的な学びにつながるように自分で工夫しながら学んでほしい。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	幼児教育の計画と評価						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	T11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。						
授業の概要	保育課程・教育課程、及び評価について基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。第1に、学校園の段階（保育所も含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第2に、教育課程、保育課程、カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解する。第3に、幼児教育における自己評価・学校園（保育所も含む）評価の仕組みを知る。第4に、日々の保育・教育活動が全体的な計画の中に位置づいていることを知る。						
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼稚園・子ども園における時間割：1日の指導計画と全体的な計画 第3回：幼稚園教育要領および保育所保育指針、認定こども園教育保育要領を見る 第4回：幼稚園・保育所のカリキュラムのポイント：5領域と発達 第5回：保育計画案と全体的な計画案づくり：遊びと学び 第6回：教育課程編成の原理 経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ： 第11回：全体的な保育計画とカリキュラム・マネジメント：育ってほしい姿に至る課程 第12回：学力問題とカリキュラム評価：PCDAサイクル 第13回：教育・保育実践とその記録 第14回：自己評価と学校園、保育所の評価 第15回：筆記試験と講義全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による 試験60%、授業毎の課題40%						
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						

科目区分	教育学科専門教育科目						
科目名	幼児教育の計画と評価						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ－	T11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カリキュラムの在り方について学び、自ら設定できるようになる。						
授業の概要	保育課程・教育課程、及び評価について基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。第1に、学校園の段階（保育所も含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色、学校間の接続について理解する。第2に、教育課程、保育課程、カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、カリキュラム・マネジメントの考え方の背景について理解する。第3に、幼児教育における自己評価・学校園（保育所も含む）評価の仕組みを知る。第4に、日々の保育・教育活動が全体的な計画の中に位置づいていることを知る。						
到達目標	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その基本的な考え方、意義や編成の方法を理解する。そのために、学習指導要領・幼稚園指導要領の改訂の変遷および各内容、社会的な背景について理解する。以上を踏まえ、各学校の実情に合わせて、短期的、中期的、長期的なカリキュラムのあり方、幼児期・児童期、青年期の発達段階に対応したカリキュラムについて考え、試作することを通じて、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。また、教科横断的な学び、およびカリキュラムについて学び、その意味を具体例とともに理解する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：「教育課程」と「カリキュラム」 第2回：幼稚園・子ども園における時間割：1日の指導計画と全体的な計画 第3回：幼稚園教育要領および保育所保育指針、認定こども園教育保育要領を見る 第4回：幼稚園・保育所のカリキュラムのポイント：5領域と発達 第5回：保育計画案と全体的な計画案づくり：遊びと学び 第6回：教育課程編成の原理 経験主義・系統主義・人間中心主義 第7回：教育課程の歴史① 戦後民主主義と経験主義カリキュラム 第8回：教育課程の歴史② 戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム 第9回：教育課程の歴史③ 「荒れ」の時代と「ゆとり」、不登校と教育課程 第10回：教育課程の歴史④ コンテンツからコンピテンシーへ： 第11回：全体的な保育計画とカリキュラム・マネジメント：育ってほしい姿に至る課程 第12回：学力問題とカリキュラム評価：PCDAサイクル 第13回：教育・保育実践とその記録 第14回：自己評価と学校園、保育所の評価 第15回：筆記試験と講義全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	授業毎の小レポートおよび筆記試験による 試験60%、授業毎の課題40%						
履修上の注意	1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。 2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。 3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						